

みどりの東北

発行日/平成22年 2 月
発 行/東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2192

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



白神山世界遺産地域の適正な保全・管理に向けて
巡視員会議の開催（詳細は2頁で紹介）

トピック

特集

「白神山世界遺産地域
に関わる各種会議の開催」
計画課

美しい森林づくり

「地域と連携した緑化推進の取り組み」
下北森林管理署

我が署の隠れた名所

庄内森林管理署
「鶴間池」

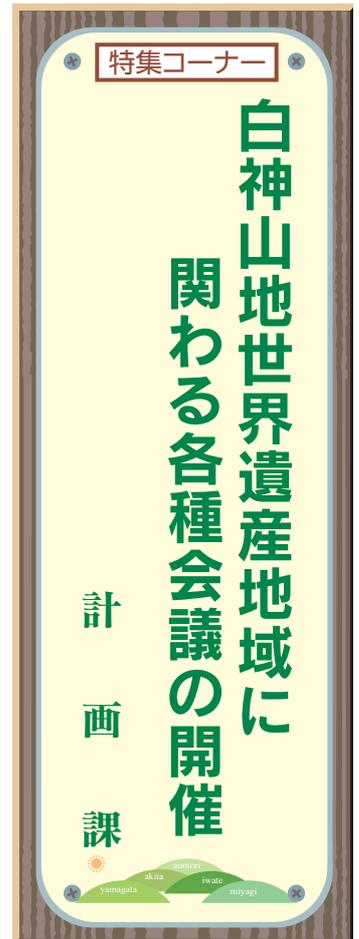


東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

特集コーナー

白神山地世界遺産地域に 関わる各種会議の開催

計 画 課



一 白神山地世界遺産地域巡視員 会議

東北森林管理局では、広大な面積を有する白神山地世界遺産地域の適正な保全・管理を図るために、職員による巡視のほか、ボランティア巡視員として秋田県側は三十四名、青森県側は二十七名の方々に、巡視活動にご協力をいただいております。

この度、平成二十一年度第二回目の巡視員会議が、秋田県側では、一月三十日（土）藤里町において、青森県側では、一月三十一日（日）弘前市において開催されました。

秋田、青森のそれぞれの会場において、巡視員（秋田県側二十四名、青森県側二十二名）のほか白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関である環境省東北地方環境事務所、各県の担当部局、東北森林管理局、そしてオブザーバーとして関係町村の担当者が出席しまし

た。

また、今回は両県の巡視員の交流を図るため、双方の代表三名の方々がそれぞれの巡視員会議に出席し、秋田、青森両県側の取組状況や共通事項について意見交換を行いました。

開催に当たり、主催者を代表して平野計画部長から巡視員の方々に、この一年間の巡視活動に対す



挨拶する平野計画部長

る謝辞と、来る二〇一二年の世界遺産会議定期報告に向け、益々適正な保全・管理が求められ巡視活動の必要性が高まっている旨の挨拶がありました。

各会場では、白神山地世界遺産地域連絡会議構成機関からの平成二十一年度の活動状況報告と、巡視員からの巡視報告書に基づく巡視活動分析や問題点等についての説明の後、意見交換に移りました。

【秋田県側の主な意見】

- ・ 白神山地世界遺産地域周辺も含め、巡視されていない箇所があるので調整を図り巡視箇所を空白区域をできるだけ無くす。
- ・ 二つ森周辺から県境を越えて入山する者に対するマナーの指導については、両県合同のパトロールが必要であり、来年度に向けて検討する。
- ・ 小岳、二つ森での歩道等の刈払い整備に対する考え方については、歩行に支障となる笹や灌木の枝の除去とし、ボランティアを主体に実施する。など

【青森県側の主な意見】

- ・ 巡視員の巡視活動の事前届出書について、入山前に届けることとし、緊急な場合も想定し、メールでの届け出も可能とする。
- ・ 合同パトロールは、自然に負荷の少ないパトロールとするため



巡視員との意見交換

同行人員数やコースを検討する。

- ・ 合同パトロールに警察や漁協の関係者も同行していただけるよう強く要請する。
- ・ 既存歩道、指定ルート以外の核心地域内の巡視活動は、特別な理由や目的が無ければむやみに立ち入らない。など

二 白神山地世界遺産地域に関わる 各種団体との意見交換会

また、巡視員会議終了後、秋田県側、青森県側ともに、同会場において白神山地世界遺産地域及び周辺で活動しているガイド団体、山岳会、自然保護団体との意見交換会を実施しました。

この意見交換会は、実際に活動

しているガイド団体や山岳会の方々の利用実態や、自然保護団体の方々の活動について情報交換を行うとともに、ニーズや課題等を把握することを目的としており、秋田県側では初めての開催となりました。

意見交換会での主な内容は以下のとおりです。



各種団体との意見交換

【秋田県側】

小岳、二つ森の歩道や山頂の刈払い整備については、歩道等に被さっている笹や灌木の枝を安全確保の観点から最小限刈払うことが出来ることとし、実施にあたってはボランティアを主体で行うこととする。

また、二つ森山頂展望台の整備延期、小岳の山頂からの展望の確保については、いろいろな意見が

出されたので今後も関係機関と調整を図っていくこととしました。

このほか、オオバコ等の移入種植物の情報提供もありました。

【青森県側】

流水での焚き火については、いろいろな入山者がいるため、山火事の危険や生態系への影響等を考慮して今までどおり入山マナーとして禁止していくこととする。

また、現在の入山規制の撤廃については、科学的知見に基づき、入山規制の影響を見極めつつ判断していくこととした。

このほか、日本でのマナーに慣れない韓国からのツアー観光客も目立ってきているので、ハンダグ語のマナーパンフレットが必要との意見も出されました。

三 白神山地世界遺産地域入山マナー標語コンクール入選作品発表及び最優秀賞受賞者表彰式

一月三十一日の青森県側巡視員会議終了後、白神山地世界遺産地域連絡会議の主催による、「白神山地世界遺産地域入山マナー標語」の入選作品発表と受賞者の表彰式を行いました。

本件は、白神山地世界遺産地域の入山マナーの意識の向上を図り、適正な保全について、広く国民の皆様に関心を持っていただく

ことを目的として、昨年七月から十月の四ヶ月間に渡って募集したものです。

応募総数は、小中学校の部七百七十一作品、一般の部二百九十七作品の計千六十八作品で、全国から応募があり、改めて白神山地世界遺産地域に対する関心の高さに驚かされました。

その中から、最優秀賞として、青森県鰺ヶ沢町立鰺ヶ沢第一中学校三年新井健太君の「守ろうマナー 白神山地は みんなの遺産」が選ばれました。



最優秀賞を受賞した新井健太君

選考委員長を務めた白神山地解説活動連絡協議会会長の土岐氏から、「キーポイントである白神、マナーが入っており素直な良い作品です。」との講評がありました。連絡会議を代表して、平野計画

部長から賞状と賞品を受け取った新井君は、「白神山地は自分たちの誇りでもあり、今後とも大切にしていきたい。」と、受賞者挨拶がありました。

なお、優秀賞は以下のとおりです。

○「マナーでつなぐ 緑の恵みの白神山地」
青森県鰺ヶ沢町立赤石小学校 六年

○「白神山地は世界の宝 みんなで守ろう 入山マナー」
青森県弘前市 柴田女子高校 二年

○「白神山地 未来につなぐ あなたのマナー」
滋賀県近江八幡市 南 英市

この入賞作品は今後、入山マナーの向上のため、マナー普及啓発用パンフレットや関係機関のHP等に掲載されます。

東北森林管理局では、今後も、今回の巡視員会議や各団体との意見交換会で出された意見を参考にしながら、ボランティア巡視員や各関係団体の協力を得て、引き続き白神山地世界遺産地域を適正に保全・管理し、適切な利用を図っていくこととしています。

「平成二十一年度森林・林業 技術交流発表会」を開催

指導普及課



平成二十二年二月四日（木）、五日（金）の両日、秋田市内のイヤタカ（民間施設）において「平成二十一年度森林・林業技術交流発表会」が開催されました。

この発表会は、管内五県の民有林と国有林が一体となって森林・林業等の技術の普及・向上及び関係者の技術交流の推進に取り組むことを目的として、森林・林業等に係る技術開発や地域において実践している林業活性化への取組などの情報提供や意見交換を行うために毎年開催しているものです。

今年度は、「一般の部」の「森林技術部門」に十六課題、「森林ふれあい部門」に八課題、国民視点に立った業務の推進を図るため今年度より新たに設けられた「国民の森林部門」に三課題の計二十七課題、「中学・高等学校の部」に七課題の発表がありました。

また、岩手県八幡平市立田山小学校の五年生による発表、宮城

県・岩手県職員等による特別発表、岩手県林業技術センターや（独）森林総合研究所東北支所による特別講演も行われました。

二日間で約三百五十人の参加があり、特に、田山小学校の発表の際には、立ち見が出るほどでした。その中で、総合的な学習の時間に



熱気に包まれた発表会場

行った森林についての学習活動の成果を七人が分担して暗記し、堂々と発表する姿に、会場内からは驚きの声が上がっていました。厳正なる審査の結果、「森林技術部門」では、森林管理業務の効率化を図るため、近年のGPS機



堂々と発表する田山小学校の5年生

器の大幅な性能向上に着目し、地図データと連携した森林管理業務の試行結果を発表した東北森林管理局企画調整室の後藤敏さん、同計画課の剣持直樹さんが、「森林ふれあい部門」では、森林環境教育の積極的な実施のために、地域の小・中学生や教職員を対象にアンケート調査を行い、その課題と今後の対応策等を発表した下北森林管理署の佐藤次郎さんが最優秀

賞を受賞しました。また、「国民の森林部門」では、林地に放置されている伐採木等の残材を、畜舎の敷料として有効活用するための現状や課題について発表した由利森林管理署の有馬俊英さんが最優秀賞を受賞しました。

「中学・高校の部」では、様々な問題により手入れが進んでいない地元の私有林について、学習成果の発揮と地域貢献を目的として整備している様子を発表した秋田県立鷹巣農林高等学校が優秀賞を受賞しました。

なお、田山小学校には特別賞が贈られました。各部門の発表課題と審査結果は次のとおりです



「国民の森林部門」で最優秀賞を受賞した有馬さん

発表部門	発表課題名	発表機関	発表者	審査結果
一般の部	「三陸北部森林管理署管内におけるクマタカの営巣状況について」	三陸北部森林管理署	久坂 浩志	
	列状間伐の選木作業に関する一考察	山形森林管理署最上支署	鷹野 祥詞	
	AHPを用いたサイコベクトルによる治山ダム景観の定量的評価について	盛岡森林管理署	浜浦 武昭	奨励賞
	XI払機用災害防止バンド「股バンド」の普及への取組について	津軽森林管理署金木支署	熊谷 優 他2名	
	スギ人工林の高齢級複層林への誘導	東北森林管理局森林技術センター	木村 正彦	
	増川ヒバ施業実験林の間伐試験について	東北森林管理局森林技術センター	田畑 良輝	
	白神山地におけるクマガラの繁殖・秋期行動について	東北森林管理局 津軽白神森林環境保全ふれあいセンター	諏訪 忠一	
	新たなGPS機器を活用した森林管理の効率化に向けた検討について	東北森林管理局企画調整室 東北森林管理局計画課	後藤 敏 劔持 直樹	最優秀賞
	高齢級林分の間伐を促進するための間伐施業集約化の取組み	岩手県大船渡地方振興局農林部	清水 俊博	
	合成フェロモンを活用したナラ枯れ面的防除の取組みについて	山形県庄内総合支庁産業経済部 森林整備課森づくり推進室	尾形 俊成	優秀賞
	岩手・宮城における馬搬作業の事例分析	岩手大学農学部附属 寒冷フィールドサイエンス教育研究センター	渡邊 篤	林研誌クラブ賞
	ニセアカシア種子における休眠と非休眠の生産比率 ～個体による違いと河川周辺における分布状況～	山形大学農学部生物環境学科	千葉 翔	奨励賞
	奥羽山系ブナ天然林における野ネズミの遺伝的多様性と遺伝子流動の評価	秋田県立大学	高野 雄太 他2名	
	ササの部分開花現象の解明 ～クローン構造と種子の結実に注目して～	秋田県立大学	佐藤 綾香	奨励賞
	地域材の利用推進に向けて ～県産スギ合板の新しい取組み～	宮城県東部地方振興事務所	向川 克展	奨励賞
雄勝地域におけるナラ類集団枯損被害に対する取組みについて	秋田県雄勝地域振興局農林部	小林 勝		
森林ふれあい部門	「古事の森」・「遊々の森」の協定締結と取組	岩手南部森林管理署	千葉 のぞみ	
	国有林って何ですか？に答える、森林環境教育実施への一考察	下北森林管理署	佐藤 次郎	最優秀賞
	上外川学習教育林の整備について ～妖精の住む森をめざして～	岩手北部森林管理署	木村 雄大 田口 隼史	優秀賞
	市民アンケートを通じたイベント実施への考察	東北森林管理局指導普及課	倉本 敬史	
	地元ボランティアとの協力による取組みについて (岳岱自然観察教育林内の歩道整備事例)	東北森林管理局藤里森林センター	安田 善朝	
	眺望山自然休養林における「森の案内人活動」について	三陸森の会	乾 和雄	奨励賞
	自伐林家育成に向けた取組み	青森県三八地域県民局地域農林水産部	工藤 真治	
	林業研究グループと連携した間伐推進への取組みについて	山形県庄内総合支庁産業経済部 森林整備課	渡辺 智之	
国民の森林部門	農林水産省の道しるべ ～林地残材を活用した農畜産業への貢献～	由利森林管理署	有馬 俊英	最優秀賞
	朝日庄内プロジェクトの改訂について	東北森林管理局 朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター	庄司 卓矢	
	国民視点に立った歩道の適正な管理（安全安心）について (「ぶな巨木ふれあいの径」での事例)	津軽森林管理署	牧 千夏	優秀賞
中学・高等学校の部	お宅の山林整備させてください ～俺たち森林バスターズ～	秋田県立鷹巣農林高等学校	工藤 翔也 他3名	優秀賞
	新たな研究領域の確立へ！ ～肥育豚の早期出荷に関するカンナクス効果について～	秋田県立大曲農業高等学校	佐藤愛美莉 他4名	奨励賞
	続・生物生態系の復元に向けて	青森県立五所川原農林高等学校	高橋 一彰 他2名	奨励賞
	地域に生き残る希少生物を保全するための取組み	青森県立柏木農業高等学校	吉田あかり 他3名	奨励賞
	里山整備に若い力を ～全校マツタケ山づくりプロジェクト～	岩手県立大野高等学校	下川原 奈々子	奨励賞
	「SAVE THE WATER! 命の源を私達の手で」 ～スーパー植物を活用した水浄化に関する研究～	岩手県立盛岡農業高等学校	村上 和子 中村 恭平	奨励賞
	ペットボトルで作る未来への森づくり	岩手県立盛岡農業高等学校	伊藤 高仁 土肥 優樹也	奨励賞
発見！森林の秘密	岩手県八幡平市立田山小学校	齊藤 豊 他6名	特別賞	

地域と連携した 緑化推進の取り組み

下北森林管理署

一 自然体験の場としての遊々の森「チャレンジパーク黒森」の整備（むつ市）

下北地域の小中学生や一般市民からの国有林を活用したいとの要望を受け、むつ市、地元部分林組合、当署の三者によって体験活動に関する協定を締結し、昨年二月むつ市大畑町に遊々の森



遊々の森を含む案内看板

「チャレンジパーク黒森」を設定しました。

この場所は海にも近く訪れる子供たちは、目一杯、海と山の遊びを経験し、野性味あふれる思い出をそれぞれの胸に刻んでいるようです。

むつ市（下北自然の家）では、今後、黒森山への登山や山中キャンプ、高見台作りなどの整備を行って、地域の子供の情操教育に有効活用していくこととしています。

当署においても「春の黒森山登山」と題し一般市民を対象とした国有林見学会を来年度予定しているところとす。



黒森山の登山道入口

二 むつ市大畑の高校生が植樹活動

むつ市大畑地区の国有林において、地元大畑のNPO法人サステイナブルコミュニティ総合研究所による植樹活動が昨年十月に行われ、ヒバとブナ併せて二百本の苗木を植栽しました。

場所は「佐藤ヶ平」と呼ばれ、その昔はうっそうとしたブナ林が広がっていましたが、その後採草放牧地として利用され、その役目

を果たした現在は広く笹に覆われています。この地区の森林再生を期し川下の地域住民などから植樹活動を行いたいと申し出があり、体験活動の場として国有林のフィールドを提供しました。

当日は、地元田名部高校大畑校舎三年生や地域住民の方々約五十人が集まり、森林再生を願いつつ作業に汗を流しました。これまで、木を植える体験をしたことがない女子生徒も多く、苗木の支柱に自分の名前を書き込んで携帯電話で記念撮影するなど、卒業前の大変いい思い出になったようです。この活動は森林保護育成を目的



ヒバを植えた証を残しました



植樹活動を行う生徒達

とした篤士家の寄付を受けて実施したもので、このNPO法人では今後も継続的に活動を行いながら、植樹木の成長を観察し効果的な再生方法を研究していきたいとしています。

三 企業の森づくり活動を紹介した植樹祭

昨年六月、東通村内の国有林において、一般公募の地域住民の方々や関係者約百五十名の参加のもと植樹祭を開催しました。

今回の植樹祭の中では、企業の森づくり活動を紹介することとして、全国で森づくり活動を積極的に展開している(株)ローソンと日本生命保険相互会社から、各地域で行っている緑化推進やボランティア活動などについて、雨の中にもかかわらず熱心に紹介してもらいました。

下北流域における企業による森づくり活動の事例はまだ少ないのですが、社会貢献活動が多くの人に評価され、こうした活動が広がっていくことを期待します。



企業の森づくり活動を紹介

【森のお話】

…コラム…

ジベレリンの枝への剥皮挿入によるヒバの着花促進

森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場

織部 雄一郎

針葉樹では多くの樹種で、ジベレリン（以下、GA）に花芽形成を促進する効果が認められています。わが国では種子の安定供給や計画的な人工交配を目的とした事業において、スギやヒノキ科の造林用針葉樹種でGAによる着花促進技術が利用されてきました。

着花促進に用いられている代表的なGA剤の処理方法を図1に示しました。GA水溶液の葉面への噴霧処理と浸漬処理は、作業の効率が良いことから、処理本数が比較的多い場合に用いられます。しかしながら、処理直後に雨が降ると葉面に付着したGAが洗い流されてしまうことがあります。さらに、樹幹の高い場所に着生した枝に噴霧する場合には薬剤の多くが無駄になります。一方、剥皮した樹幹あるいは枝にGA剤を挿入する処理は、作業効率は噴霧処

理や浸漬処理よりも劣りますが薬剤が無駄が少ないことから、処理本数が比較的少ない場合には経済的で有効な方法です。

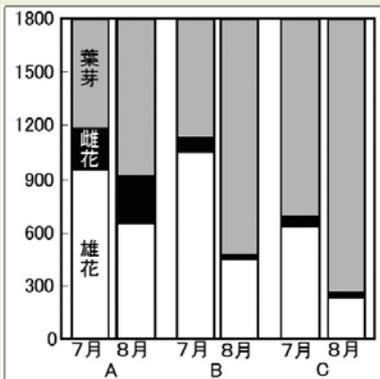
ところで、GA剤は農薬の指定を受けているために、事業等で着花促進に用いる場合には用法が厳格に決められており、ヒノキ科では葉面への散布処理しか認められていません。そこで各関係機関が共同で、ヒノキ科に属する有用な造林樹種についてGA剤の剥皮挿入処理を事業に適用するための許可申請に必要な情報を収集することになりました。東北地区では東北育種場と青森県産業技術センター林業研究所が、ヒバについて、GA剤の剥皮挿入処理の着花促進効果を評価し、処理するクローンと処理時期による着花促進効果の違いを調べました。

供試し、平成十八年七月に、このうちの一枝には剥皮した部位にGAペーパ剤を塗布し、他の一枝には剥皮処理を施し、残りの一枝は処理を施さない対照としました。GAを授与しなかった枝には花はほとんど着生しませんでした。GAを授与したほとんどの枝には花が着生し、雌花の数は雌花の数よりも多くなりました。

つぎに、平成十八年七月に実施した実験結果をもとに供試木から、雌花が多いクローン、雄花が多いクローン、葉芽が多いクローンをそれぞれ三クローン選び、各クローンから三ラメットを供試しました。各供試木の二枝には平成十九年七月に、別の二枝には平成十九年八月にGAペーパ剤を剥皮挿入しました。実験結果を図2に示しました。七月および八月の処理では、着生した雌花の数と雄花の数には、クローンによって差が認められました。八月の処理では七月の処理に比べて、着生する雌花の数には違いが認められませんでした。着生する雄花の数は減少しました。

以上の結果は、他の関係機関で実施されたヒノキとサワラの試験結果とともに「平成二十年度林業薬剤等

試験成績報告集（社）林業薬剤協会にまとめられ、GA剤の剥皮挿入処理をヒノキ科の樹種に適用するための情報として活用されています。平成二十二年度からは、GA剤の剥皮挿入処理がヒノキ科の樹種でも許可される予定です。



横軸：A雌花が多い。B雄花が多い。C葉芽が少ない
縦軸：1800芽=3クローン×3ラメット×2枝×100芽
図2 GA処理枝に着生した葉芽、雌花、雄花の数



A噴霧処理。B浸漬処理。C剥皮挿入処理
図1 GA剤のいろいろな処理方法

イベント情報

イベント名

「かんじきトレッキングで親雪体験 囲炉裏でマタギの話进行こう」

期 日 平成22年3月6日(土曜日) 9時～
 実施場所 山形県西川町大井沢「セミナーハウス」周辺
 実施内容 9:00 開会式(セミナーハウス集合)
 9:30 舎那山まで雪上かんじきトレッキングと
 樹木の冬芽観察、動物探索、雪ソリ体験
 12:00 昼食(大井沢名物引摺うどん・イワナの塩焼き)
 13:00 マタギの話
 14:30 閉会式



募集人員 小中学生の親子 先着25名程度
 参加費 大人1,000円、子供500円(中学生以下)(昼食のうどん、傷害保険料、資料代等含む)
 申込み方法 電話、FAX、メールにより下記までお申し込み下さい。
 申込み締切 平成22年2月26日(金曜日) 17時
 その他 長靴、防寒衣、手袋、着替え、帽子、タオル、飲み物、必要な方はおにぎり等持参してください
【参加申込み及びお問い合わせ先】

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
 住 所：山形県鶴岡市下名川字落合3
 電 話：0235 (58) 1730
 F A X：0235 (58) 1731
 E-mail：t_syounai_f@rinya.maff.go.jp



遠野支署長

つのかげ ゆう きち
 角掛 勇吉(岩手県)



- 47・4 青森局川尻署採用
- 12・4 東北局宮城北部署次長
- 19・4 東北局企画調整室監査官
(青森事務所副所長)
- 21・1 東北局企画調整室企画官

国有林野管理課長

ひらの いわお
 平野 岩夫(岩手県)



- 46・4 青森局川尻署採用
- 13・4 東北局三陸中部署次長
- 19・4 東北局企画調整室監査官
- 21・4 東北局遠野支署長

新任者略歴
 紹介(2月1日付け)

～森の仲間の裏話 11～

へえーそうなんだ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター 所長 青山 一郎



集団越冬

山眠る季節、寝入って過ごすコウモリのお話し。
 コウモリの冬眠は、うたた寝のクマの冬ごもりとは違って、外気温とほぼ同じ
 体温で過ごす徹底した省エネ戦略。たまには起きますが、スイッチオンから始動まで
 には少し時間がかかります。
 写真はキクガシラコウモリ。大きな耳と鼻葉が特徴的。鼻葉は超音波発射のバ
 ラボラアンテナだとか。
 一頭でぶら下がっている奴は翼のマントで全身を覆うのが彼らの越冬の特徴。
 とくが密集箇所では防寒の必要が無いためか、マントは使いません。起動時間
 も単独の奴よりは速いようです。
 同じ洞窟の近接箇所でも単独ぶらさがりと密集越冬の2タイプは混在しており、
 雄雌や成幼で違うのかも知れません。
 寒い盛りですが日差しは確実に春に向かっています。山笑う季節を夢見てもう
 一眠りです。

コウモリ
 の冬眠



キクガシラコウモリの顔



単独越冬



早池峰山(北側)のお薦めポイント

三陸北部森林管理署

平津戸森林事務所 久坂 浩志

私の勤務する平津戸森林事務所の住所は、岩手県宮古市平津戸南平津戸山国有林215林班(局管内でも国有林が住所になっている大変珍しいところ)です。朝起きると、敷地内に熊や鹿が歩き、冬には、玄関が凍って開かない、道路が塞がり200mほども除雪しなければならないなど、着任当時は、暮らしの面で大変でしたが、早4年と5ヶ月が経ち、すっかり慣れたところです。

平津戸森林事務所は、早池峰山(標高1917m)の北半分と閉伊川を挟み岩泉町境までの約12,000haを管理しています。部内には、アイオン・カスリン台風の復旧工事で施工したアイオン沢治山ダム、気候と周辺の水質が良かったため群生しているカタクリの群生地、蜜原樹のトチノキ大木、クマタカ・イヌワシ等猛禽類の巣など多様な森林生態が見られます。



冬の早池峰山

さて、早池峰山と言えば、小田越・河原の坊の比較的楽なコースから登り、高山植物を鑑賞できる山というイメージがありますが、当部内の登山道であるニギリ沢、材木沢、剣が峰の3つのコースは、全てが往復10km以上、往復8時間以上かかる健脚向きのコースです。この3つの登山道は、登山者のマナーが大変良く、ゴミ捨てがほとんど見られず、快適に山頂まで登ることができます。また、他の登山者とすれ違うこともあまりないのでトレイルランも可能です。私もこれらの登山道を踏破し、三十路を過ぎてから脚力がついたので、自信を持って宮古市のハーフマラソン大会に臨んだのですが、あえなくゴール直前で失格となり、「山歩き」と「マラソン」は合致するものではないと痛感しました。

早池峰山頂上からは、真北の位置に三陸力

ラマツ列状間伐モデル林を遠望でき、2伐4残の伐区が見える様子は爽快です。

また、地元「姥ゆりを愛する会・川内老人クラブ」が国有林に点在する姥ゆりを守り育てていこうと設定した“姥ゆり街道”は、達曽部併用林道起点から終点までの6kmの林道沿いに約400株にもものぼる姥ゆりが群生し、7月上旬から8月上旬のわずか1ヶ月間ですが、訪れる人たちの目を和ませてくれます。



カタクリ群生地

昨年、大規模林道住田川井線が開通し、早池峰山南口のアクセスが容易になりました。これにより宮古方面から小田越方面に登山客の増加が見込まれるため、今後もマナーの向上に努めていかなければならないと考えています。

旧川井村・小国村・門馬村が合併し昭和30年に発足した川井村は、平成22年1月1日に宮古市となりました。私も川井村に5年近く住み、寂寥たる思いがあります。閉村の記念に、内館勝則川井村長が、自ら国有林内より選定した蛇紋岩を使用し建立した記念碑が旧川井村役場にありますので、お立ち寄りの際には是非ご覧になってみてはいかがでしょうか。



蛇紋岩の閉村記念碑

我が署の 隠れた名所

庄内森林管理署

悲恋の伝説残る「鶴間池」



「のぞき」から見た「鶴間池」

(見所の概要)

いわずと知れた東北の霊峰「鳥海山」は山形・秋田の両県に跨って、日本海に裾野を洗い、最高峰の新山は標高2,236m、山麓の周囲120kmにも及ぶ東北第二の高山です。

その南麓（標高約800m）に位置する鶴間池（南北250m・最大幅130m、深度約4m）は、勾玉の形をした美しい火口湖です。

酒田市から鳥海高原ラインの滝の小屋登山道へ行く途中に「鶴間池」の案内板が見えてきます。

通称「のぞき」から見下ろす「鶴間池」はブナの森に閉じこめられたような静かな、そして神秘的な湖です。

この湖には、遠い昔、親の仇討ちを果たすため、



湖畔から見た「鳥海山」

恋人（親の仇）と別れ鶴間池のほとりで武術の鍛錬に励み、自らの運命を湖のほとりの百合の花に占った「黒百合姫」伝説が残っています。

恋人の子を宿した姫は、「望みが叶ったなら百合の花を墨色に咲かせて下さい。」「望みが叶わなかったら昔ながらの色に咲かせて下さい。」

果たしてその結末はいかに。

今も湖のほとりには「黒百合」が咲くそうです。

いかがでしたか、「黒百合姫」伝説、興味のある方は是非一度「鶴間池」を「のぞき」に来て下さい。

時間に余裕があったら、下まで降りてみて下さい。ただし、神秘の湖だけあって、片道1時間足らずの行程は、行きも帰りも難所だらけです。ロープあり・鉄梯子あり・藪あり・谷ありますが、人生は諸行無常のなんとやら、遠い昔のかすかな記憶の世界へタイムスリップしてはいかがですか。

交通アクセス

JR酒田駅から国道344号線で八幡観音寺を経由し鳥海高原ラインで「のぞき」まで約1時間、「のぞき」から「鶴間池」まで下って約1時間です。



お問い合わせ先

〒997-0015 山形県鶴岡市末広町23-37

電話番号：0235-22-3331

FAX：0235-22-3333